

合志市の文化財

1 二子山石器製作遺跡



縄文時代後期～晩期にかけての打製石斧(せきふ)の製作所跡です。石器は近隣の遺跡から出土しており、当時の交易範囲や製作過程を知る上で極めて重要であることから、昭和47年、国指定史跡に指定されました。他に円墳2基や西南戦争の際の砲台跡があります。石器と遺跡の解説は、合志市歴史資料館で見ることが出来ます。

2 旧熊本回春病院日光回転家屋



ハンナ・リデル女史創設の旧熊本回春病院(熊本中央区黒髪)より昭和49年に移築されました。床下のキヤスターにより太陽の動きに合わせて回転でき、日光浴や患者さんの相談の場として使われていました。ハンセン病の歴史を語る資料であり、また、その構造が近代建築史においても貴重であることから、平成20年、国の登録有形文化財に登録されました。

3 竹迫城跡



鎌倉時代初期、地頭職として赴任した竹迫氏の祖、中原師員(もろかず)が築いたと伝わっています。竹迫氏約320年、合志氏約80年の居城として、合志郡一帯の統治の拠点として栄えましたが、天正13(1585)年、島津氏との戦いで落城しました。周囲約5.9kmの大規模な惣構(外堀)が目立っています。

4 竹迫城絵図



文政8(1825)年、大塚惟矩(これのり)によって描かれました。竹迫・合志氏時代の城跡や館・寺・田・道路・集落・空堀の状況が克明な説明文と共に描かれています。絵図は2幅あり城域を推測する上で大変貴重な資料として合志市歴史資料館で公開しています。

5 竹迫観音祭



毎年7月第2土曜の夕方から行われる県内で最も早い夏祭りです。赤い幔幕(まんまく)を張り、行灯を灯して太鼓をのせた木製のドラゴンジャーと呼ばれる台車を、若衆が曳きまわし竹迫観音堂へ奉納します。起源は鎌倉時代の風流盆踊りと、江戸初期の馬頭観音への御礼からとすると2つがあります。

6 合志町高千穂神楽



毎年11月19日の竹迫日吉神社の例大祭に奉納されます。この神楽は、明治2年に上庄区の有志8名が、宮崎県高千穂町にて習得して帰ったものと伝えられています。舞は全て採り物を手にして舞う直面の舞です。

7 虚空蔵さん



上庄区虚空蔵谷の洞窟に虚空蔵菩薩がまつられており、こくんぞさんの名称で親しまれています。祭日である毎年元日と1月13日には、多数の参拝者が訪れ、頂いた5円玉の福寿銭を、ご利益があった場合、翌年倍以上でお返しに来るという風習があります。

8 御手洗遺跡



縄文時代後期の遺跡として広く知られ、土器や石斧、古墳時代の土師器(はじき)や高杯(たかつき)が出土しました。昭和の初めここで見つかった土器は縄文後期の土器として「御手洗式土器」と命名され学界の注目を浴びることとなりました。現在は畑となっています。

9 桑鶴遺跡



縄文時代晩期から弥生時代の遺跡で、石器や土器が出土しています。その形状や文様から御領式土器(縄文後期)・三万田土器(同)に分類されています。非常に薄手の精巧な作りになっており、弥生式土器に似ているといわれています。現在は畑となっています。

10 木瀬遺跡



弥生時代の遺跡で、5ヶ所の住居跡と集落をとりまく塚が確認されました。出土品として土器や石器のほか、直径5cmほどの青銅製の鏡(S字文鏡)が出土しています。また本遺跡は、竹迫城惣構えの北端部に位置しています。

11 医音寺跡



医音寺は明治初期に廃寺になっていますが、開基は長徳年中(995～998)ともいわれ、周辺の竹林から僧侶の墓石や板碑、菩薩などが発見されています。合志氏15代の合志親為(親親)の逆修碑(※を参照)や本市で最も古い明応2(1493)年の板碑などがあります。

12 合志郡絵図



60cm×62.5cmの和紙に、主な道路や各村落、里程などが記されています。合志郡の地形が色彩豊かに描かれており、細川藩政時代の郡内の地理を知ることができます。「弘化3年誌」の記載があった作成時期と考えられています。現在、合志市歴史資料館で見ることが出来ます。

13 合志親為肖像図



合志氏歴代城主の中でも特に強い武将であったと伝えられる第15代の合志親為の肖像です。この肖像図は親為の没後153年経った元文3(1738)年に模写したと記されています。複製を合志市歴史資料館に展示しています。

14 15 竹迫日吉神社楼門・社殿



竹迫日吉神社は正治2(1200)年、竹迫氏の祖、中原師員(もろかず)の創建と伝わります。現存する楼門は、建築技術や彫刻などの様式から安土桃山から江戸時代の作りと推定され、社殿は宝永年間(1704～1711)に再建されたものと伝わります。

16 今町座組阿弥陀如来像



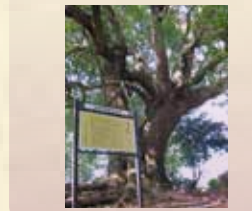
二子区今町に伝わる朝鮮半島からの渡来仏です。高麗時代(915～1392)後期に造られたとみられ、銅製で中は空洞になっており、肥満気味のものが多いこの時代としては珍しく細身で背筋が伸びています。複製を合志歴史資料館に展示しています。

17 平島の大太鼓



平島公民館にあり、明和8(1771)年、浄輝寺の落慶法要の際に奉納されたと伝わります。ケヤキの一本くりぬき作りで、直径が134cm、胴回りが420cmあり、(張主)平石門、(木長)理平・右次郎・彦次郎・善次郎などの名が記されています。

18 天神平の樟



上庄区にある市内で最も大きな樹木です。幹回りは6.18mで、樹高は22mあります。枝張りには東に14.0m、西に10.8m、南に14.7m、北に9.8mあり、樹齡は約350～400年と推定されています。

19 豊岡宮本横穴群



古墳時代後期(6世紀頃)の横穴墓です。31体の人骨のほか、イモガイ製の貝輪や金環、ガラス玉・勾玉、武器や馬具などが出土しました。現地は見学路や説明看板が整備されており、また装身具や武器は合志市歴史資料館に展示しています。

20 黒松古墳群



大小6基の円墳からなる黒松古墳群は古墳時代中期(5世紀頃)の築造と考えられています。頂上に3体の石仏がまつられている通称ヌレ観音古墳と呼ばれる1号古墳は、直径約40メートル、高さ約7メートルあり、県内でも最大級の円墳です。

合志市の歴史・文化財を調べるには



合志市歴史資料館・合志図書館
合志市福原2922 総合センター「ヴィーブル」内
TEL096-248-5555



合志マンガミュージアム
合志市御代志1661-271
TEL096-273-6766



西合志図書館
合志市御代志1661-265
TEL096-242-5555

文化財についての問い合わせ先

合志市教育委員会
生涯学習課 生涯学習班
〒861-1116 合志市福原2922
総合センター「ヴィーブル」内
TEL096-248-5555
FAX096-248-5450

42 後川辺ヤンボシ塚古墳



後川辺北側の高台にある、東西8m、南北7m、高さ3.5mの円墳です。当初は、直径14.5mで、約2mの周溝をめぐらしていましたが、昭和初期の畑地の改良工事で溝は埋められています。

43 永田支石墓



弥生時代前半の代表的な墓です。基礎となる数個の石の上に巨石を乗せた構造であり、朝鮮半島から伝わった葬制です。県内では合志川流域に多く、永田支石墓も2メートルを超える大石が覆っています。

44 狹迫横穴群



6基の横穴墓内から副葬品として金環やガラス小玉などの装飾品、鉄鍬や馬具である轡などの鉄製品が出土し、また葬送儀礼に使用した大型甕や壺・高坏(たかつき)などの土器が多量に出土しました。築造年代は6世紀の中頃(約1450年前)と考えられています。

45 八反原遺跡



縄文時代から平安時代の複合遺跡です。各時代の土器のほか、縄文時代の石器、弥生時代の鉄器・青銅鏡・ガラス玉・環・壺・竪穴住居跡、古墳時代の方形周溝墓・円墳・箱式石棺、奈良・平安時代の竪穴住居跡などが見つかりました。現在は畑地で出土物は合志市歴史資料館に展示しています。

46 竹迫橋



竹迫城の外堀である新堀(現鶴川)に架かる石橋です。竹迫下町の重要な交通の要所にあるために、数回にわたって拡張工事が行なわれ、現在、眼鏡橋の部分は上からはほとんど見えません。

26 合志三十三ヶ所観音

旧合志郡内の33ヶ所の観音様を巡る「合志三十三ヶ所観音」のうち、市内には20番札所から29番札所までの10ヶ所の観音堂があります。

27 竹迫六地藏

現在、竹迫地区に4体の地藏が残っています。建立の由来は疫病退散祈願のためと伝わります。上町と横町の地藏の台座には、ともに享保12(1727)年の銘で、願主医官寺家海和尚、石工肥前国小郡平川川四衛門と彫っており、

28 放牛地藏

江戸時代、放牛と呼ばれる僧侶が、県内各地に石地藏を建立しました。現在107番までと無番8体が確認されていますが、市内には3体の放牛地藏があります。建立された理由は、武士に無礼討ちにあった父の冥福を祈るためや飢饉(ききん)・災害で亡くなった人々の供養と考えられています。

29 竹迫五山跡

「肥後国誌」には「竹迫五山跡」として「竹迫城繁栄ノ比当地二五山アリ」とあります。長福寺跡、国泰寺跡、金龍寺跡、清壽院跡、金福寺跡がそれで、現在は板碑や小堂が残るのみです。

30 弘生菅原神社ウソ替祭



毎年11月29日に実施されます。氏子に番号札が配られ、祭当日「かえましょ」という声とともに周りの人と取替え、その後の富突き(富くじ)で同じ番号が当たった人に賞品が贈られます。富突きの木箱には「天保元年」の文字が記されており現在も使われています。

31 須屋小屋地藏祭



交通安全の祈願と地域住民の交流を深めるお祭りとして、4体のお地藏さんが見守るなか毎年開催されています。明治時代は、大変な賑わいでけんかも多かったことから、別名「けんか地藏」ともいわれていました。

32 須屋神楽



須屋区に伝わる神楽で、須屋神社で11月15日ほか、元旦など3回奉納されています。須屋神楽は、東北から奥中央に分布するいわゆる肥後神楽であり、大正4～5年頃、市内の大池から習得したといわれています。

33 黒石神楽



平成6年に須屋から神楽を習得しました。毎年、11月27日の黒石日吉神社の秋の大祭のほか、正月などに奉納しています。

34 竹迫会所跡



肥後細川藩が設置した行政区画である手永(てなが)のうち、本市は竹迫手永に属していたが、この手永の役所である会所が竹迫町の中心部に置かれていました。後に、会所跡には、村役場や法務局合志出張所などが置かれました。

35 黒石地筒鉄砲射場跡



寛永13(1636)年、豊後街道と菊池往還の間に5ヶ所の地筒(鉄砲隊)が配置されました。黒石地筒はその一つで、普段は農耕に従事しながら、月に5日ほど熊本城内で業務にあたりました。当時、ここには盛り土した弾止めがありました。※現在は私有地です。見学の際はご注意ください。

36 合志義塾跡



私塾合志義塾は、明治25年に開塾し、昭和25年の閉塾まで約67年の農家の子弟が学びました。合志のみならず遠くは県外から生徒が集まり、人づくり教育を柱に、基礎教育や上級学校進学のための教育が行われ多くの人材を輩出しました。※現在は私有地です。見学の際はご注意ください。

37 阿弥陀如来板碑



市内に残る線刻の阿弥陀如来像の中で最も古い像です。建主が生前に浄土への成仏を願って建立した逆修碑で、大永3(1523)年2月の銘があり、医音寺の明応2(1493)年の板碑に次いで、市内で2番目に古い板碑です。

38 地藏菩薩板碑



市内に残る線刻の地藏菩薩像の中で最も古い像で、大永3(1523)年8月の銘があります。建主が両親のために立てた逆修碑で、市内で3番目に古い板碑です。

39 原口新城跡



「竹迫城絵図」に「原口城を新城という」との記載がありますが、竹迫日吉神社一帯を新城跡といいますが、昭和50年の発掘調査から、築城年代は15・16世紀と推定されています。出土品の一部は、合志市歴史資料館に展示しています。

40 千束城跡



塩瀬川浄化センターの南側の山中にあります。九州探題今川了俊が菊池に侵攻した際、この城も攻めましたが、周囲は深い沼で近づけず、切り竹を束にして埋めさせたましたが千束(たば)でも埋まらなかったことからこの名がつけられたといわれています。

41 須屋城跡



南北朝時代に一帯を治めた須屋村藏隆正の居城と伝わります。東西約200m、南北約200mの平地で、空堀跡や土塁が残り、中世の平地跡として県内でも少ない貴重な遺跡です。発掘調査から室町時代に最も繁栄していたことや、城の重要な部分が発跡の東北部に位置することなどがわかっています。

42 後川辺ヤンボシ塚古墳



後川辺北側の高台にある、東西8m、南北7m、高さ3.5mの円墳です。当初は、直径14.5mで、約2mの周溝をめぐらしていましたが、昭和初期の畑地の改良工事で溝は埋められています。

47 黒石原(飛行場)奉安殿跡

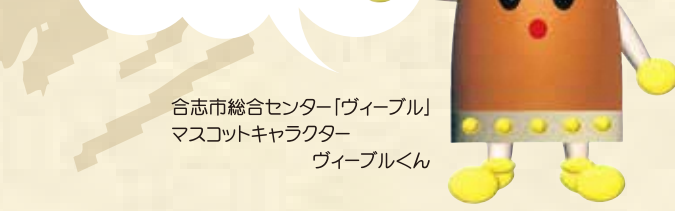


昭和13年、逓信省熊本地方航空機乗員養成所として開所しました。昭和19年、太刀洗陸軍飛行学校黒石原分教場が開校され、同年、陸軍が接収し養成所は閉鎖、終戦間際には特攻隊の中継基地となりました。養成所時代の奉安殿が現存しています。

合志市内には、国指定史跡である二子山石器製作遺跡を始め、多くの史跡や文化財がありますが、このマップには指定を受けたものとそれ以外の代表的な文化財をのせています。



史跡や文化財は、合志の地に生きた人々から受け継いだ貴重な歴史遺産であり、次の世代へ大切に伝えていかななくてはなりません。見学をされる際は、みだりに文化財に触れたり、また地元の方へご迷惑をかけることがないようにご注意ください。



合志市総合センター「ヴィーブル」マスコットキャラクター ヴィーブルくん